

平成30年度 教職員自己評価 ー重点目標に対する評価ー

評価の基準	A：十分に達成できた	B：概ね達成できた	C：あまり達成できなかった
-------	------------	-----------	---------------

重点目標1 確かな学力を身につけた人間性豊かな生徒の育成 ー「勉強プラスワン」の深化・充実ー 【評価B】

- ①授業や指導方法の工夫改善により自ら学ぶ態度を育成し、学力の伸長を図る。
 - 教科指導を工夫改善し、きめ細やかな授業を行っている。朝の学習会や土曜学習会に加えて、平日の課外も導入し、学習機会・学習時間を増やすよう、自主学習の定着を図った指導を行っている。
 - 学習アンケートでは、家庭学習時間が短い生徒が確認でき、家庭学習の時間を確保するのが難しいという生徒も見られる。今後も、生徒の家庭学習時間の確保や学習意欲の向上、主体的な学習習慣の確立に向け、学校全体で組織的に対応していく。
- ②気力、体力を充実させるとともに、品位ある生活態度を涵養し、知・徳・体の調和のとれた生徒を育てる。
 - 部活動への加入率が高く、積極的に活動する生徒が多い。また、運動部・文化部ともに全国大会・関東大会へ多数出場し、多くの部活動が実績を上げている。
 - ほとんどの生徒が学校行事に熱心に取り組み、多くの生徒が校内外のボランティア活動・奉仕活動等に積極的に参加している。明るく挨拶を交わし、元気に学校生活を送る生徒が多い。

重点目標2 進路実現を目指したキャリア教育の充実 【評価B】

- ①自己の在り方生き方について考えさせ、社会的・職業的自立に向けて必要な能力を育成する。
 - 1年時から学年担任と進路指導部等が連携し、外部講師を招いての講話を開催するなど、生徒の職業意識や社会性を育成している。こうしたことが、生徒にとって自己の興味・関心や将来について考える良い機会となっている。また、総合的な学習の時間・LHRの時間に実施している「大学出張講座」や「職業観育成講座」は、より具体的な進路意識の向上を目指して実施している。
 - 3年生が進路を決定するにあたり、生徒各自がそれまでのキャリア教育の成果を活かし、納得できる進路実現を果たせるように、教員が協力・連携をさらに深め、組織的に指導していく。
- ②3年間を見通し、個に応じた指導を充実させ、進路選択への主体性・積極性を醸成する。
 - 学年・教科や進路指導部などの各々が連携し、生徒の進路希望を実現させるための指導が行われた。
 - 教員各々による「個に応じた指導」を一層充実させ、生徒自身が「個の弱点や必要性に応じた対策」を自ら立てられるように導く。

重点目標3 生徒の学びを支える魅力ある教育環境づくりの推進 【評価B】

- ①教職員一人ひとりが資質能力の向上に努め、校務全般にわたって組織的に対応する。
 - 「主体的・対話的で深い学び」実現のためのよりよい教科指導法などを取り入れるなど、教員一人ひとりが資質向上に努め、生徒をサポートする。「組織としての指導体制」をさらに強化していく。
 - 特に今年度は、現状に満足せず、自身の資質向上並びにチームとしての指導体制を向上させようとする意識が、例年よりも強く現れる結果となった。教育環境にかかわる根本的な問題として、教科・学年・校務分掌の枠をこえた取り組みに努める。
- ②安全・安心な学校づくりを目指し、意識の高揚、体制の整備に努める。
 - 「いじめ・体罰アンケート」実施や「いじめ防止啓発」指導などで、未然防止・早期発見に努めている。定期的な「安全点検」や日常の清掃作業等で、校内の安全・衛生が保たれている。
 - 学校メール一括配信システムやホームページにより、緊急時の速やかな情報発信等ができるようになっており、保護者からも一定の評価を受けている。
- ③交通事故防止と交通マナーの向上などの安全教育の徹底を図る。
 - 自転車の乗り方・マナーの向上や自動車との接触等の交通事故の防止、不審者への対応など、登下校時等の安全意識の高揚に向け、継続的に指導していく。